



阿蘇運営委員
 阿蘇ワイズメンズクラブ 五嶋 義行さん

若かりし日、牧場経営を目指すも...

世界三大夜景のひとつとも言われる香港の夜景を見て、五嶋義行さん(67歳)は自問していました。「面積は東京の半分、人口700万人の都市に年間2,800万人、海外からの観光客が訪れる。阿蘇はどうだ?」。

「肥後のあか牛^{うし}で牧場経営を」。1976年、将来への夢と希望に満ち満ちていた若き日の五嶋さんは、一大決心をしました。当時の日本政府が進めていた農業研修制度でアメリカに行くというのです。この制度は、農業を志す若者を2年間アメリカに派遣して、英語学習や農業実習をするというもの。五嶋さんの8年前、同制度でアメリカに渡り、のちにハーバード大学大学院を修了、熊本県知事になったのが蒲島郁夫さんです。歴代の農業研修生たちによる「熊本県国際農友会」では、今も世代を超えた交流が続いているといいます。

「アメリカには大きな夢を受け入れてくれる懐の大きさがあった」。ところが、五嶋さんが帰国して牧場経営を始めた数年後、その夢は打ち砕かれます。1970年代の日米貿易摩擦に端を発した「牛肉輸入自由化」です。80年代後期から、アメリカの安価な牛肉が日本にたくさん輸入されるようになりました。

人も自然も雄大でありたい

こだわり続けた完全無農薬の稲作

「肉牛農家はみんなどん底に落ちていった。40万円で売っていた子牛が半値になった」。五嶋さんはあれほど夢見たあか牛の牧場経営を断念。阿蘇の原野を借りてじゃがいも作りを始めますが、慣れない分野の農業は困難の連続でした。「天候が安定せず、雨が多くて計画的な畑作ができない。もう農業はやめろ、と親せきに言われたこともあったけれど、自分が農業をやらなければだれがやる!と、自らを奮い立たせた。『逆境の中にこそ夢がある』は蒲島知事の言葉だけど、まさにそういう心持ちだった」。

1980年代、五嶋さんは二度目の大きな決断をします。それは稲作への「転業」。農業でも一括りにはできない全く異なる分野です。しかも五嶋さんの稲作は「完全無農薬」。「そもそも当時は『無農薬』という言葉自体が浸透していなかった。農薬、化学肥料を使わない稲作などあり得ないと周囲から言われ、「変わり者」扱いされた」。無農薬の認識がほとんどなかった当時、五嶋さんの決断がいかに周囲を驚かせ、また反対も少なくなかったか想像できます。

子どもたちの足音を聞いて育った稲

家族を支えるために猛烈に働いた30〜40代の頃、五嶋さん夫婦の4人の子どもたちはYMCA尾ヶ石保育園に通いました。「あの頃、農家はみんな必死だった。朝から晩まで休みなく農作業していたからね。子どもたちはみんなYMCAに育ててもらったようなものだ。自分も子どもの頃はYMCAのクリスマス会でお菓子をもらった。地域にとってYMCAは身近な存在だったね」。

ある日、熊本YMCA野外活動クラブの担当職員から連絡がありました。子どもたちに田植え体験をさせてほしいという依頼でした。「引き受けたよ。もちろん無償で。阿蘇や熊本市内から小学生とYMCAのリーダーたちが来た。田植えはお世辞にも上手いとは言えなかったが、しょっちゅうやってきて除草までしたから稲は立派に育った。『稲は主人の足音を聞いて育つ』と言うが、あの稲は子どもたちの足音を聞いて育ったんだ。これが子どものエネルギーか、と心底感心した。10年続けたよ」。



2004年度野外活動クラブの田植えの様子

稲作を初めて35年。五嶋さんは今も完全無農薬での稲作や養鶏を中心に家族と農業を営んでいます。「雄大な阿蘇の自然のように、おれたち阿蘇に住む者たちもグローバルで雄大でありたい。国際団体であるYMCAが阿蘇に4つの保育園やキャンプ場を持っているのだから、YMCAを通じて人づくりをしていくことが、今後の夢の一つかな」。

寒さが厳しい阿蘇。未来への期待をにじませる五嶋さんの頬はいつにも増して赤く見えました。

Pickup

1歳児が黒ネコのタンゴ
 赤水保育園
 クリスマス発表会



英会話と世界のことば
 クリスマスパティー

リフレスおおむた
 親子でクリスマスリース
 作り



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

1月26日 Saturday

演劇・ダンス・合唱
YMCA学院児童福祉教育科 卒業発表会学び
×
発表

保育士、幼稚園教諭を育成するYMCA学院児童福祉教育科では、3年間の学生生活の集大成として、毎年、子どもたちに向けた発表会を開催。企画から運営まで、クラス一丸となって、学生主体で取り組みます。一般公演はどなたでも観劇可能です。ぜひお越しください。

回 1月26日(土) 13:00開場 13:30開演
場 嘉島町民会館
(上益城郡嘉島町上島545)
費 無料 因 創作劇・歌・ダンス



昨年度の様子

私たちの“全力のお遊戯”
観に来てください

YMCA学院児童福祉教育科 3年
金田爽加さん(卒業発表会総監督・右)
山本史織さん(卒業発表会副総監督)

8月から準備をしてきました。今年のテーマは「カラフル」。20歳を超えた大人の私たちが全力で劇やダンスなどの“お遊戯”をします。それぞれが持つ個性(色)を大切にしながら、みんなで大きなものを作っていきたいです。家族、友だち、先輩後輩はもちろん、興味のある人なら誰でも来場可能です。ぜひ観に来てください。見所は今年初めて挑戦する、全員で踊るソーラン節。「精一杯やった」と胸を張って言える発表会にしたい。そして、日頃言葉では表すことができない感謝の気持ちを伝えたいです。

1月26日・30日

熊本バンド結盟143周年行事

祈祷会
×
ボランティア

早天祈祷会

日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった熊本バンドの143周年を記念して早天祈祷会を開催します。

回 1月30日(水) 6:30～7:30
場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前
要 覧 「熊本バンドと基督教青年会の歴史物語」
小山哲夫さん

[小山哲夫さんプロフィール](#)

1948年、滋賀県近江八幡市生まれ。ヴォーリズ学園・関東学院大学文学部英米文学科卒。1972年来熊、熊本YMCA総主事を経て現在、日本YMCA同盟学生YMCAコーディネータ、YMCA史学会理事。



ボランティアデー

熊本バンド早天祈祷会を前に、熊本バンドゆかりの地花岡山に集い、掃除・散策をします。

回 1月26日(土) 9:30～11:00
場 花岡山山頂周辺(鐘掛松一帯)
雨天中止。当日午前7時に実施を判断します。実施中止かの判断がつきにくい場合は、Webサイトを確認してください。



場 熊本バンド143周年記念行事実行委員会事務局
Tel 096-353-6397(熊本YMCA)

2月22日～28日

いじめのない世界をめざす ピンクシャツデー

YMCAは「ピンクシャツデー」に取りくんでいます。社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、いじめられている子どもたちを救うことになる...と私たちは考えます。公正で平和な世界の実現をめざすために、私たちはその歩みを続けます。

今年のピンクシャツデーは2月27日(水)。いじめの問題について一緒に考え、アクションを起こしませんか？

各センターの取組み

各センターでは、ピンクシャツデーを含めた1週間、子どもたちがピンクの服や小物を身につけて来館。ピンクシャツデーについて学び、いじめについて考える機会とします。



ピンクシャツデーパレード

ピンクのシャツやグッズを身につけパレードを通していじめのない世界を目指すことをアピールします。

回 2月24日(日) ※詳細は各センターやWebでご案内します。

いじめ
防止

ピンクシャツデーとは

2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。

ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年がいじめられました。それを聞いた先輩2人が「明日、皆で一緒に学校でピンクシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身につけて登校。いじめが自然となくなったそうです。

このエピソードは世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。

R | E | P | O | R | T

[11月23日⇒12月11日]

大会

すべての“Y”がつながる日 日本YMCA大会

今年で20回目を迎えた日本YMCA大会は、11月23日(金・祝)から25日(日)の3日間、静岡のYMCA国際青少年センター東山荘で行われました。

今年のスローガンは「つどえ東山荘に! ~すべての“Y”がつながる日~」でした。文字通り日本全国のYMCAに関係している人々がつながり、お互いのことを知り、交流を深めました。様々な社会問題について、YMCAだからこそできる解決方法などを考え、そのことを深く掘り下げていく対話形式で、「他のYMCAでは地域の人々やYMCAのため

に何をしているのか」、「これから何をやっていけばよいのか」などを話し合いました。

YMCAのことを思う参加者が全国から集うこの大会に参加し、たくさんの人と“つながる”ことができ、本当に光栄に思います。この貴重な体験をYMCAにつなげていくために自分ができることを考え、行動に移していかなければならないという使命感を胸に、これからもYMCAに携わっていきます。

九州ルーテル学院大学4年 川崎将太



社会貢献

YMCA年末募金 街頭募金を実施

「こども 若者 国際協力」をテーマにしたYMCA年末募金。2018年11月24日(土)と12月2日(日)、熊本各地で街頭募金活動を行いました。子どもたちも含め500名を超えるボランティアが呼びかけ、街頭募金として622,830円が集まりました。

子どもたちからは、「『募金お願いします!』と言ったら『ありがとう』と言われて、募金をもらったのがうれしかった」との声。募金をお願いする側と、募金をする側、お互いが愛と感謝に満ちた時間となったようです。子どもたちには、社会や世界

のためにできるボランティアの機会、そして地域の皆さんには支援を必要とする人たちに改めて思いを馳せる機会となり、多くの人々にメッセージを届けることができたのではないのでしょうか。

YMCA年末募金は1月31日まで行っています。この募金は、災害や経済的困難のため支えの必要な子どもたちの教育や学びの機会の提供、災害復興支援やコミュニティづくり、国際協力などに活用されます。皆さんのご協力と呼びかけをお願いします。

職員 中村賢次郎



クリスマス

熊本地震復興支援 チャリティーコンサート

2018年12月11日(火)、くまもと森都心プラザホールで市民クリスマス2018「Migiwaチャリティーコンサート」を実施しました。

コンサートの前には、会場の皆でクリスマスの讃美歌を合唱。日本福音ルーテル大江教会牧師の立野泰博さんからメッセージが語られ、クリスマスとは何かを考えるひと時を過ごしました。

シンガーソングライターのMigiwaさんによるコンサートでは、クリスマスソングやオリジナルソングが披露されました。Migiwaさんは東日本大震

災の支援のために幾度も東北へ出向き、その活動中に熊本地震が発生。その後、熊本でも復興支援の活動を行ってきました。クリスチャンの家庭に生まれ、幼少期から聖歌隊などで音楽に親しんできた彼女のつくる曲は、教会との強い結びつきがあり、それが歌詞の力強さの源なのだと知ることができました。

入場料の一部は、熊本地震復興支援活動等のために活用されます。

職員 須藤史朗



岡 総主事の タラント Vol.55



未来への継承

新しい年を迎えました。2019年が皆様にとって素晴らしい年となることをお祈りいたします。

私事です、昨年、父を見送りました。心のよりどころを失い、寂しさを感じると共に、父の想いをしっかり継承していくことが私の務めだと感じた一年でもありました。さらに、熊本YMCA

を長くお支えいただいていた元理事長の柏尾誠之さんが昨年末、天に召されました。柏尾さんが、「日本的な精神の象徴である武士道と人々の救いに至るキリスト教というのは、深いところにつながっている」とおっしゃっていたのを思い出します。YMCAフィランソロピー協会設立の際にも多大なる貢献をいただきました。愛を持って、いつも優しい眼差しでありながらも、厳しさも兼ね備えた素晴らしいリーダーシップを発揮していただきました。御霊の平安とご遺族への癒しがあることを祈るばかりです。

YMCAは現在、会員運動の更なる拡充とYMCAブランドの再構築に取り組みながら、熊本地震からの復興を目指し、困難な中におられる人々に寄り添う支援活動を継続的に実施

しています。自分のためではなく誰かのために生きることこそが本当の幸せではないか、と考えます。隣人にいかに寄り添っていくかが問われています。

YMCAは、未来へ希望をつなぐためにブランドスローガンとして「みつかる。つながる。よくなっていく。」を掲げ、日本YMCA中期計画2020のもと、全国の仲間に参加と協力を呼びかけています。

私たち熊本YMCAは、熊本バンドの愛と奉仕の業のもと、昨年70周年を迎えました。これまでの先人の想いや願いを継承しながら、社会から共感と信頼を得る団体として、YMCA運動の新たな一歩を踏み出していく年とする決意と覚悟、信仰をもって前進いたします。

t a l a n t o n



第3回インターナショナル・チャリティーラン

2018年12月9日(日)、熊本県農業公園カントリーパークで第3回熊本YMCAインターナショナル・チャリティーランを開催しました。益金は、YMCAの障がい児プログラムのために活用されます。



78チームが参加したグループランたすきリレー



オープニングを飾った園児ラン



グループラン小学生タイムレース



様々なコスチュームで楽しくファミリーラン



個人ラン タイムレース



ゆるキャラも応援



フードパークでグルメを堪能



肥後銀行女子駅伝部によるランニング教室



ニュースポーツ“ボッチャ”体験



当日の写真は1月28日までの期間、閲覧・購入が可能です。 <https://snappark.jp/>
※当日参加者にお配りしたアクセスコードとパスワードが必要です。



わたしと聖句



天草中央キリスト教会
南圭生

ヨハネによる福音書 16章33節

これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。

人生の勝利者

世界的に有名な人物の聖書観を記してみました。

「聖書は、神が人間に賜った最も素晴らしい賜物である。人間にとって望ましいものはすべて聖書に含まれている。」(リンカーン)／「いかなる世界の歴史におけるよりも、聖書の中にはより確かな真理が存する。」(ニュートン)／「聖書は単なる書物ではない。それに反対するすべてのものを征服する力を持っている。」(ナポレオン)／「聖書は古いものでもなければ、新しいものでもない。聖書は永遠のものである。」(ルター)

これらの人々は聖書に対する自分自身の経験を正直に話しているのだと思います。

聖書には私たちが知らなければならない本質的な答えが記されています。神がどのような方か、神と人間との関係がどのようなものか、人間の存在の意味とは何かなど。それだけではありません。人間一度生まれながら死を免れることはできません。しかし、イエスは言われました。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない」。イエスが死んで三日目によりみがえられたということは、人間が誰一人として征服できなかった死を征服したという意味であり、それだけでなく、人間の罪に勝利し悪魔に勝利した証拠がある。十字架だということです。そして信じるすべての者に惜しみなくその勝利を与えてくださるということです。ですから誰でも信じる者は人生の勝利者になれるのです。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／岡 成也 編集人／因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2018年度基本聖句

コロサイの信徒への手紙 3章14節
愛を身に着けなさい。
愛は、すべてを完成させるぎずなです。